

第 2 1 回 市民参加懇談会コアメンバー会議

－市民参加による政策検討会議－

議事録

1. 日 時：平成 1 7 年 6 月 2 3 日（木） 1 5：0 0～1 7：0 0
2. 場 所：虎の門三井ビル 原子力安全委員会第 1、2 会議室
3. 出 席 者：木元座長（原子力委員）、碧海委員、新井委員、井上委員、小川委員、
小沢委員、吉川委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員
（原子力委員会）近藤委員長、齋藤委員長代理、町委員
（内 閣 府）森本企画官、後藤企画官、犬塚参事官補佐
4. 議 題：1. 次回の市民参加懇談会の開催について
2. その他
5. 配付資料
資料市懇第 2 1－1 号 次回の市民参加懇談会開催計画（案）について
資料市懇第 2 1－2 号 第 2 0 回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

(1) 次回の市民参加懇談会の開催について

○事務局より資料第21-1号について説明した。

(木元座長) 2つに大きく分けて開催要請のあったものと、事務局案を並べている。皆様のご意見もこの中に入っている。市民参加懇談会としてしっかりと開催する場合には、広い視野から皆様方のご意見を伺いたいという気持ちがあり、ファックスなどでご意見を伺って策を練ってきた。その結果が資料の事務局案と開催要請ということになっている。これについて、例えばテーマの候補とか、プログラム案とか、開催要請のご意見の中身とか、何かご意見がぁおりなら、ご発言いただければ大変ありがたいと思う。

例えば福岡の場合は、佐賀県の方でもプルサーマルの件でシンポジウムをやったりしている。福岡で開催した場合に、やはり九州ということで、プルサーマルについてのご意見は出るだろうと思うけれども、そのときにプルサーマルに関してこのような情報がこういように届いたから、理解したとか、理解していないとか、こういうご意見を持ったということが聞こえてくるだろうと思う。そこで、「知りたい情報は届いていますか」と、何回か市民参加懇談会で使ったテーマを挙げた。その地域によって中身が若干変わるけれども、やはり情報は本当に届いたのだろうかということをメインに持ってくることにより、さまざまなご意見を伺うことができるし、その結果、私はこういうふうに思っているというご意見が出てくると大変ありがたいという思いがある。

一方で、今度の新計画に対して原子力委員会は「ご意見を聴く会」を開催する。そういう状況の中で、市民参加懇談会をもっと広い視野から開催しようと考えている。

そういう現状である。何かご意見、あるいは、前回から今回までの期間が少し長かったので、その間にこういう実態があるよということがあれば、教えていただきたいと思います。

どなたか。吉岡委員。

(吉岡委員) 私は福岡に住む者だが、3月20日に私の住む西新というところで震度6弱の地震がぁあって、そのひと月後の4月20日に震度5強の地震がぁあって、1回目の地震のときは家具や食器が幾つか破損して、横積みの本が全部落下して、山のように床に積み上がって戻すのに骨を折ったけれども、4月20日にその半分ぐらゐの規模でまた崩れて、二度も何時間もかけて復旧した。地震というのは私にとっては恐ろしさも含めて非常に身近な感じを持っている。

全国で大きめの地震が立て続けに起こっていて、非常にリアリティーのある話である。静岡県の住民団体の開催要請、御前崎でという提案だが、場所はどうであれ、地震という

のは非常にタイムリーな話題である。かつ地震については、長期計画においては中間取りまとめとか論点の整理では、それほど深い議論がなされていないので、地震というテーマは私にとっては非常にいい時期にやるのでいいのではないかという気がしている。

福岡でやるということだけでも、プルサーマルを玄海3号機で計画をしているが、福岡では関心が強くない。しかし、運動家の間では、北九州や佐賀も含めてプルサーマル問題には非常に強い関心が一部にはある。

ところが、木元座長や私が出た九州電力主催の公開討論会、これは玄海町で開かれたけれども、600人規模の会場で300人余りしかいなかったが、玄海町と隣接市町村の方しか入れなくて、その外部からいろいろ抗議に来た人たちがいた。抗議に来た人たちは会場の中に入れなかった。

（木元座長）その件は後で訂正したい。

（吉岡委員）要するに隣接地域以外の人にとっては、プルサーマル問題というのは、もともと関心は低いけれども、外部の関心のある人にとっても十分な情報提供及び議論の行われる機会が限られている。その意味で、議論を触発するという点では、プルサーマルを主題に福岡でやるというようなこともあると思うけれども、私は静岡の方がタイムリーであろうという認識を持っている。

（木元座長）ありがとうございました。確か600人規模の会場で480何人だった。

（吉岡委員）通算で。

（木元座長）そうである。

（吉岡委員）数えたけれども、後半は半分ぐらいしかいなかった。

（木元座長）後半というのは、第2部の方の後半のときのことか。

（吉岡委員）第2部である。

（木元座長）そういうことである。来場された方々をその日追い出したと言われるが、追い出したという言い方をされるとおかしいと思うのは、参加者は公募だったからである。参加者全部事前にお申し込みいただいた方に入っていただくということで、きちんと広報している。それで名簿ができていた。

それでも当日、参加できないとおわかりの上で福岡からバスでお見えになった方たちがいらっしゃって、その方たちが会場の中に入れろ入れろと言われ、横断幕か何かを出してらした。その他にも入りたいという地元の方もいらっしゃったけれども、参加者名簿になくて、全部お断りしたとのことである。事前にお申し出がなかったということでお断りさ

せていただいたということは事実としてあるということである。だから、拒否したということではない。

（吉岡委員）いや、拒否というのは微妙な言い方だけれども、公募の様式で玄海町と隣接市町村の住民というふうに初めから対象が限られていたと私は認識するので、福岡の住民は、その名簿には入りようがなかったわけである。

（木元座長）まず地元ということで、それは限っていた。今度は福岡でやればいい。

（吉岡委員）プルサーマルをテーマにするなら佐賀でやるのも割合よいと思うが。唐津という手もある。

（中村委員）それに関して言えば、確かに木元座長、吉岡委員がお出になった公開討論会というのは大きな催しだったが、情報提供としては、実は玄海町も唐津市も佐賀市も、エネ庁の主催でやっている。これについては、たしか事前登録制ではなかったと思うので、基本は公募で、当日、現場で入場申し込みというのもあったと聞いている。佐賀市などもそうだったと思うけれども、確か人数はどちらも、そんなにたくさんは集まってはいないが、ある程度の情報提供はされている。ただ、私の認識でも、福岡市及び前原市とか福岡県側というのは、玄海町が佐賀県なので、やはりちょっと温度差はある。ただ、福岡の場合だと、ほかの例だが、大分の方も車ですぐ来られる。私がやったシンポジウムでも、これは別のテーマだったが、大分の方も福岡へ来たり、福岡の方がこの間大分へ来てくれたという例もあるので、福岡というのはあのエリアでは中心地だから、テーマをどうするかというのは別としても、九州での開催を考えたときには、やはり前回の議論からの流れでいくと、かなりの規模の消費地で、情報提供をしながら我々の本来の目的である広聴、いろいろご意見をいただくということから言うと、構成としても第1部、第2部構成で、2部がもうちょっと検討の余地があるかなと思うが、この案にある形で福岡市というのは僕も適当な選択ではないかなと思う。

開催要請については、前に意見を求められたときに私も意見を届けたと思うけれども、開催要請というのは受けたというのが基本姿勢である。実は福岡県西方沖地震は3月20日の朝、私も福岡市のホテルで遭遇して、本当に恐くてしゃがみ込んでしまったが、やはり僕のホテルの部屋のテレビがベッドのところまで飛んで来た。倒れたのではなく飛んできた。ビジネスフロアだったのでかなり大きな25型ぐらいのテレビだったけれども、それが飛んできて、たまたま僕はロビーにいたので大丈夫だったが、地震については個人的に私も非常に興味はある。ただ、市民参加懇談会としての基本姿勢を考えると、特に今

年度に入って遅れに遅れていてこれが初めてになってしまっていることもあり、耐震安全性という非常に特化したテーマについて、我々がご意見を聞きに行くというのは、ちょっとなじまないかなと思う。特に第1部については、我々の手に余るテーマであり、人選、登壇要請というのも手に余るし、要請される相手がちょっと違う。我々のところではなくて、何かほかに適当な開催要請先があるのではないか。その橋渡しはしてあげられるかもしれないけれども、我々が直接お受けするのは厳しいかなというのが私の印象である。

（木元座長）今おっしゃったのは、例えばプログラム案の方のパネルディスカッションで、地震学者の意見の違う方2～3名を対論というか相互にお話していただいて、耐震の話ができる方、中電も可と要請の中で聞いているので、中部電力の方も入れるとなると、原子力委員会が開催するというより、別の機関がふさわしい。そういうことだろうか。

東嶋委員。

（東嶋委員）今のお話で、「浜岡原発を語るかい」の方からの要請の中で、静岡県内では説明会が開かれているが浜岡では説明がないということなのか、これは電力会社が説明会を開いているということなのか。今、耐震工事だったか、何かしら始まっていると聞いている。それに当たって、やはり電力会社からまず説明会が地元に対してあるべきだと思う。私自身の考えとしては、今おっしゃったように、まず電力会社とそれから国のほかの機関なりでやっていただいて、説明会に対する期待というのはわかるけれども、ここは説明会というよりは、やはりご意見を聴くというのが中心だと思うので、例えば福岡市でも静岡市でもどちらでもいいけれども、「知りたい情報は届いていますか」というテーマにしておいて、地震に対する不安な点というご意見を聞くということではできると思う。

（木元座長）ご意見の中で出てくるだろうということ。福岡でやれば、地震も出てくればブルサーマルも出てくる。もちろん、静岡もあるかもしれないけれども、静岡が今地震に特化しているとする、そうでない方がいいということか。

（東嶋委員）はい、地震に特化してしまうと、本当に説明会を期待して皆さんがいらっしゃると思うが、やはり説明会ではないと思う。そうすると、もうちょっとテーマを幅広くとっておいて、自分は地震に対してここが不安なんだとか、自分はブルサーマルのここが知りたいんだとか、それを聴くのが私たちのお仕事ではないかと思う。

（木元座長）お答えするというのではなく、聴くことだということか。

（東嶋委員）はい。

（木元座長）小川委員。

（小川委員）要請文によると、中部電力に対する不満というのがあらわれている。相当な強い思いをある対象に対して持っているというふうに考えられる。そういうようなことの仲介役というか、裁判官役として原子力委員会に何とかしてくださいと言っているような、その要望を受け入れるというのは、市民参加懇談会はふさわしくない立場だと思う。地震のことを話し合うということはいいが、余りにも要望者の思いに特徴があり過ぎるというか、極端であるというところに対して、市民参加懇談会の企画として、仲裁みたいに入ってくるような形になるのはよくないと思う。

（木元座長）仲裁というのではなくて、国が主催して、耐震に対して大丈夫ですよという方と、いや怖いですよという方を呼んでの対論である。そこで中部電力が話す場合に、中部電力はこうします、というようなことである。仲介というより、こちらが場所を設定して討論していただくという形になると、最初に小川委員がおっしゃったように、今までの市民懇とはちょっと様子が違うかなという印象は確かにある。仲介はできないと思う。

（小川委員）わかりました。私がそれを誤解したのかなと思う。

それから、500名という規模を希望していらっしゃる。市民参加懇談会としては、そういう大きな会場で説明会を開くというのは、そもそも一義的なことではないということに進めてきた。意外とこじんまりした会場で、その会場の人が話しやすい雰囲気というのは大事にしてやってきたので、この要望に従って、大広聴会をしようということをそのまま受け入れるのもどうかという気がする。

（木元座長）強いお気持ちはおありになるとは思う。せっかく市民参加懇談会というものを知ってくださって、時々傍聴にも来てくださっているけれども、やはりそういうお気持ちがあるということは大事だと思う。もしかしたら中村委員がおっしゃったように、それならこういう案がありますよという、そういう意味での仲介はできるかもしれない。例えば、別の機関に話をしてみるとか、あるいは独自に開催できるような人をこちらから推薦するとか、今おっしゃったことを踏まえると、そういうことになるか。

（小川委員）この要請をそのままそうしようとした場合、今度は逆にそれに拒否反応を起こす層というのが出てくるような気がする。そことの間に立つ主催者としては市民参加懇談会になるわけだから、そのときに、きちんとやっていけるか心配な気はする。

（木元座長）このご要請はちゃんと私たちは受けとめているから、これで自分たちの市民参加懇談会の範疇で、どういうことができるかということだろうと思う。そうすると、今の中村委員、それから東嶋委員、小川委員からご意見が出たけれども、ほかに何か同じよ

うなことで結構だが、またこういう視点があるのではないかというご意見があったらお聞かせいただければありがたい。

新井委員はいかがか。

（新井委員）中村委員がおっしゃっていたように、確かに静岡からの開催要請があったということは、きちんと受けとめなければいけない。さりながら、地震ということになると、非常に特化したというか、我々——いや、私の場合だけれども、私の場合だとちょっと、話が出てもなかなか受けとめられない、非常に技術的な話になれば特に。皆さんから意見がどんどん出ているように、これは別な形でやれるような、きちんとした学者の方がパネルディスカッションなり何なりやるという別な考えがやはりいいのだと思う。

これは「原子力と暮らし」という同じテーマで福岡と静岡、両方でやるというようなことは考えられないだろうか。地震が出ているからやらないというふうに簡単にしてしまうと、せっかく開催要請があったということに対して、それを我々が拒否した形になるのは望ましくないと思う。両方やるというわけにはいかないか。

（木元座長）開催したいと思う。今、おっしゃったように、私たちが受けとめたけれども、私たちの中で具体的に学者の方を呼んで対論するという形はとれない、それだけに特化しているのはできないということだけである。

（新井委員）それは無理だと思うので、幅広く、テーマそのものは「原子力と暮らし」というふうな形でやるしかないと思う。耐震安全性をテーマにした場合、本当に相当地震学者の人たちと、あるいは原子力工学か、建築学か、わからないが、そういう人をきっちり揃えないと、不安だけが高まるような、そういうような集まりになってしまう。不安は幾らでも高めようと思えば高まるので、その意見だけがどんどん出されていくという状態も余り望ましいわけではない。いや、望ましくないというのは変だけれども、そこだけが強調されてしまうというのは問題である。バランスがとれなくなってしまうので、これは別途何かの形で考えて、中村委員がおっしゃったように、斡旋か何かできないかという形はよくても、我々でやろうとする市民参加懇談会というのには直接的にはなじまないと思う。同じテーマではだめか。その中で何かうまくできないか。

（木元座長）工夫できればと思う。

（新井委員）ただ、具体的な質問が出た場合に答えられるか。答えられないのではないかなと思う。

（木元座長）「原子力と暮らし」というテーマにしても、どうしても地震だけのことに特

化されるような方向だったら、そういう方にパネリストをお願いするという形になると、何かまたちょっとおかしくなってくるという気はしないでもない。何かこのいただいた開催要請の案というのは、このとおり受けとめさせていただいた場合には、今の何人かの方のお話の中では、テーマとして「原子力と暮らし」の中で出てくるけれども、それは単に地震学者の方をお呼びして開催するという形ではない方向で受けとめるということになってしまう。それはどうなのかなという気持ちもある。

碧海委員。

（碧海委員）地震というのは、やはり市民生活といろいろな面で関わりのあること。だから、本当は地震についてということは、原子力に特化したことではないのではないか。つまり、地震に関して一般市民が考えるべきことというのはもっとほかにいっぱいあって、だから、私自身も地震についてはもっと知りたいと思うことはいろいろあるが、でも、それは違うのではないかというのが一つで、基本的には、中村委員が最初におっしゃった意見に私も賛成である。とにかく要請があったところはなるべく受けるべきだというのは、これは原則として私も賛成だが、地震というのがやはりどうしても引っかかる。今、浜岡の原子力発電所と地震とで非常に具体的に何か問題があって、それでそのことをテーマにしてというならわかるけれども、そういうことではない。

（木元座長）具体的になると結構あるだろうとは思いますが、それは我々の範疇を超えるだろうと思う。

（碧海委員）そう思う。浜松に近いところに工場を持っている会社があって、その工場を建設するときに、私の身内に地震学者がいて、その地震学者を紹介してその会社の役員と話し合いをさせたことがあるけれども、工場なら工場を建設するときに専門家ととことん相談をする、議論をする、こういうことは当然必要だと思うし、それは当然中部電力だったに違いないと思う。それが一般の市民の問題として考えたら、不安だけではないかという気がする。でも、地震に関する不安は、東京に住んでいても物すごくある。その不安だけのレベルだったら、話し合いにならないという気がするし、その辺は疑問がある。

（木元座長）東嶋委員。

（東嶋委員）さっき両方一緒にできないかということを新井委員がおっしゃったけれども、ちょっと突飛なことを言ってよいか。木元座長とか、委員会の皆さんにお伺いしたいが、例えば原子力安全委員会と共催のような形にして、安全委員会が耐震安全性について専門家を招いてお話をし、その後に原子力委員会の市民参加懇談会がご意見を聞くような形

式はだめか。

耐震安全性についての不安というこのテーマをせっかく要請していただいたのだから、さっき中村委員がおっしゃったように、安全委員会に持っていきなりして、一緒にできるならやるというのは難しいか。

（木元座長）基本的には、やれるものならやりたい。

（犬塚補佐）開催要請を伺った時の話から考えると、難しいかもしれないと思う。

（中村委員）その辺はニュアンス的には何となく感じる部分が要請文にもある。言ってみれば我々の市民参加懇談会を最後の縁（よすが）として、あるいは新たな展開のきっかけづくりとして期待していただいたということは非常にわかるので、基本的にはお受けしたいところである。

先ほどの私の意見と新井委員がおっしゃったこととをミックスして、改めて提案させていただくと、テーマとしては、我々独自の路線である広聴ができる広いテーマの立て方というのが原則だということは、わかっていただかなければいけない。ただ、今年度、スタートが遅れていることもあるので、物理的に可能ならば、福岡県と静岡県を1カ月ぐらいの時差で連続開催するのはいかがか。テーマを広く持っていくが、この要請に関しては、第2部の一部についてはお応えできるかもしれない。つまり、市民参加懇談会としてはせっかく要請いただいたけれども、できるのはこういう形で、こういうテーマのあり方で、こういう形で皆さんからご意見を聞くのはできるということをお示しするのが、せっかくの開催要請に対しての基本姿勢だと思う。要請のそっくりそのままには応えられないということ。我々ができるのはこういう形だということで、静岡県も開催した方がいいのではないか。

それから、ちょっと吉岡委員と僕はニュアンスが違うけれども、福岡というのも非常に大事なんで、できるだけ早い時期に、例えば8月、9月とか、9月、10月とか連続した形で、静岡と福岡、両方我々独自の主催でできないかというのが最終的な私の折衷提案である。

（木元座長）一つ思い出した。先ほど申し上げた、福岡からバスでいらしたグループ、その方たちの関係の方とお会いしたときに、じゃあ福岡で市民参加懇談会をやってくださいということは口頭で言われた。自分たちの手続の不備があって入れなかったということで、とても残念がっていらした。もし市民懇がやる場合には、それはプルサーマルに特化してやるわけではない、ということは申し上げた。

(中村委員) プルサーマルも出るし、福岡でも地震が出るかもしれない。

(木元座長) 出るかもしれない、すべて暮らしにかかわることとして。碧海委員がおっしゃったように、何も原子力だけではなくて、地震、全部不安だという思いが入ってくるかもしれないけれども。福岡で事例をつくってもいいかもしれない。

吉岡委員。

(吉岡委員) 長計のパブリックコメントが、私にはわからないけれども、9月ぐらいまではやるだろうという認識に立つならば、8、9月は休戦期間中のようにも思えるわけで、8月、9月という形で開催するという中村さんの提案は悪くはないと思う。

原子力安全委員会は地方広聴会というのを何回かやった。例えば横浜でJCO事故についてNGO団体と事実上の討論会という形でやったこともあったと思う。だから、できれば前向きに対応してほしいけれども、まだその時期ではないのかなという認識を持っている。いずれはやってほしいけれども、静岡でまず何らかの形で私たちが要請を反映させるというのは大賛成である。

その際に、木元座長の性格かもしれないけれども、進んで紛争地帯に入っていくというような性格があって、それと要請は原則として受けるという感じから言えば、行動様式としてはそれほど従来と違うわけではない。初心に戻るぐらいの、むしろそういう感じだ。構成も初心に戻って第1部、第2部になってしまうというのは、これも戻ったなと思う。両方のタイプがあってもいいのかもしれないけれども、そういう古いタイプのものももう1回、この夏にかけて試してみるのもいいかなと思う。「原子力と暮らし」というテーマはちょっとあいまい過ぎるので、このタイトルでもいいけれども、地震との中間をとると「原子力防災」のような形でのテーマ設定になるだろう。ただ、防災というと地震の方に静岡の方々は引きつけて、福岡ではまた違うように引きつける可能性があるので、それもニュアンスを与え過ぎというような気はするけれども、「原子力と暮らし」というふうなタイトルを立てる際にも、そういうニュアンスとして例えば静岡では防災をサブタイトルとするという方法もある。地震と普通の一般災害が重なるというのは余り経験がないし、長期計画でも取り上げられていないし、不遜な話だけれども知的には物すごくおもしろい問題であるわけで、大いに興味があるし、言いたいこともいっぱいあるので、テーマとしては、防災をやや強調するような感じで立てられないだろうかと思う。

(木元座長) 小沢委員。

(小沢委員) どこでやるかの問題だけれども、「原発を語るかい」の代表世話人から伺っ

た要請文というのを見ると、これはなかなか大変なんだと思う。浜岡原発はスマトラ沖地震のあったときに、いかに危ないかというのでテレビでやっていた。一番危ないところとして挙げられていて、私も見た。ほほう、と思った。

でも、物すごいのが起きたときは、みんなだめになってしまうのだから、原発一つだけが突っ立っていたって、ほかがつぶれてしまえばしょうがないんだから、あまりそこを言う問題ではないと思う。ただ、「必要な情報は届いていますか」というようなテーマを立ててやっているときに、私たちは、浜岡では全然自分たちは大丈夫だという話を聞いたことがない。このことについてぜひ話したいと言ったら、例えば小川委員のようなご意見があると、もう最初から拒絶反応を受けると思う。仲介に立つのは嫌だとか、ほかの人に拒否反応が出たらどうするとか、そんなことは考えることないと思う。

それより、この中で地震学者の話を聞きたいというのがあるが、これは私は筋が違うと思う。というのは、市民的なグループだったら自分たちで地震学者を幾らでも呼んで勉強会をやることができるし、その勉強会を市民参加懇談会が主催するような形をとるのは、私は方向は違うと思う。ただ、言っている中で、説明するのは中部電力でいいと言っている。浜岡がこの程度と説明すればいい。例えばその地震が起きて、どこもかしこももうみんなだめになってしまう、スマトラのときのような津波が東京湾で起きたら、原宿の駅もみんな吹っ飛ぶそうだから、そんなことを想定してやるのではないだろうと思う。みんな死んでしまうのに論議したってしょうがないではないか、みんな流れるのだから。

そうではなくて、ある程度、みんな生き残っているけれども、浜岡原発がこの程度で崩れるとか、何かそういう想定なんだと思う。それで、冷静に考えたらおかしいけれども、隣にいる人にとっては、危ないと思うのは当たり前で、そんなに拒否反応だとか、仲介だとかというのではなくて、浜岡原発を持っている人たちが大丈夫ですよという程度のことで私はいいと思う。

たしか2月のコアメンバー会議のときには、サイレント・マジョリティということで論議が沸騰したと思う。私が、サイレント・マジョリティなどないのではないかと、原発に関しては、聞いてみるとみんな反対と言う、そんなことを言ったが、こういう要請が出てきたのなら、私は大喜びで乗ってしまう方がいいと思う。ただ、この内容について見ると、針ネズミ的に理論武装しなきゃならないと思っている人たちもこのグループの中にはいそうだけれども、しかし、大体どこでも原発になるとそういう人が出てくるので、特化する必要はないのではないかと。私は、非常に興味がある。どういうことを言ってくる

のかと。おととい温暖化の勉強会をやったが、あれを聞いてもいろいろなことがあるわけだから、「知りたい情報は届いていますか」と聴いて、私たち地震のことが届いていませんと言ったら、それが一番重要だったら、やはりそれを持っていくしかないと思う。

（木元座長）そうすると、お勉強会的になる。

（小沢委員）お勉強会というよりも、どうしてそういう不安なのか。さっき言ったように、これをどこかへ届けたいと言うなら、届けたい意見として私たちは聞けばいいと思う。

（木元座長）一番最初におっしゃったように、地震学者で意見の違う人を呼んでというのは市民懇に合わないけれども。

（小沢委員）これを全部やらないで、そういう話をしたらいいと思う。ここのところは、私たちとしてはあなた方がその勉強の結果、違うという意見を持ってきて、そのことをやりたいというならその話は聞くけれども、両者の意見を闘わせる場としては考えられないと。つまり、市民の意見を聞こうとは言うけれども、学者が論議する場を聞こうということでは私たちにとって別の場だから、それはやはりちゃんと説明した方がいいと思う。

手に余るというお話があったけれども、本当にこれが安全委員会の方でやった方がいいと思うのなら、きちんと受けとめてやっていただくようにした方がいいと思うけれども、でも原子力委員会ということで言えば、安全委員会に渡してしまえば私たちは全然関係ないということではないだろう。言いたいことがあると言っているのだから。

（木元座長）逆に言えば、耐震安全性になると本当は安全委員会のマターなんだろうけれども、意見としてならば、とにかく聞くだけ聞いて安全委員会にお渡しするという流れか。

（小沢委員）いやいや、そういうふうにはできないから言っているのだろう。だから、そういうふうにして私たちは逃げるわけにはいかないだろう。まだ聞いてないのだから。聞いてからこことこの部分は安全委員会の方にお渡しするというふうに持っていけばいいだけのことだし、中部電力との仲介なんてことは一切関係ないと思う。いや私たちは耐震をちゃんとやっておりますと中部電力が答える、中部電力が耐震について答えられる範囲のことでどうやらいらしい。この要請文を見ると。

（木元座長）答えているのではないか、中部電力は。かなり対応しているのではないかとと思うが、それだけでは納得できないというお気持ちがあるのだろう。

（小沢委員）でも、中電でもいいと書いてあるから、それは言葉どおり受け取るべきであって、それを納得していないでしょうというふうに深入りはできないのではないか。

（中村委員）それは議論する出席者の1人として中電も可ということだから、中電の言う

ことをそのまま聞きましょうということではまずないと思う。

（小沢委員）それは百も承知だが、それを言ってしまっただけでは困るのではないか。

（碧海委員）吉岡委員がおっしゃった防災というのはだめか。防災なら、暮らしている側が非常に深く関わる。つまり、防災というのは誰かがやってくれるということだけではなくて、あるゆる意味で自分たちの行動も含まれる。地震だけに特化するというのは、私はどうしても反対であり、専門家の意見を、ただ説明を一方的に聞くというのは、この市民参加懇談会の目的にはどう考えても反すると私は思う。市民の側が何を考えているかということを見なければ、私は不満だから、せめて防災というような言い方に変えて、立つところを少しずらすことはできないかと思う。

（小沢委員）それは全然筋が違うと思う。乾パンと飲み水を私たちは用意していますという人でなければ、原発が危ないかどうか言えないのか。

（碧海委員）いやいや、そういう意味ではなくて、例えば、全国の原子力発電所があるところで、今までは避難訓練みたいなものにも一般の市民をほとんど参加させないと、あるいはそういうことをやるという情報すら提供しないというようなことが言われてきた。

（小沢委員）だれが提供しないのか。

（碧海委員）その関係者が提供しないということ。例えば、原子力発電所と消防署が一緒になってやるにしても、そういうことはそこに住んでいる地元の人たちには一切お知らせなしでそういうことが行われるとか、そういうことに対する不満のようなものは、私も立地地域で聞いたことはある。何かそういうことも含めてならわかるのだが。

（小沢委員）そういうことも含めたらどうか。そういうことなら。でも、それではないだろう、この要請を言っている方は。

（木元座長）開催要請の方は、そうは言っていないということ。

（碧海委員）要請は違うと思う。でも、私は地元の要請にこたえるのが原則だと思うけど、この要請どおりでは違うと思う。

（中村委員）まさにその辺りで結論を出さなければいけないのではないかと思うが、ただ、防災というのもまた、この開催要請に相当引きずられている感じで、もう1回原点に戻って、我々の会としてテーマを立てることをもう1回やるべきで、2月のときにも吉岡委員から地震の話も出ているし、さらには核攻撃の話まで出ていて、そのとき危機管理とか保安とかという言葉は大分出たけれども、それも結論は出なかった。防災も同じで、テーマとして立ててしまうと、また我々がそんな小分けにしたテーマで開催するのかというところ

ろにまた話が行ってしまうような気がするので、内容はどんなご意見も伺いますよという姿勢で、テーマの立て方は少し大ざっぱでいいのではないかというのが結論。

せっかくご期待いただいたが、開催要請をそのままお受けできないということ。しかし、静岡県、御前崎でも静岡市でもいい、「我々ができる市民参加懇談会というのはこういう形です」と、「こういうテーマの立て方でこういう形なんです」と。ただし要請のあった地元、あるいはその近くで、同じ県で開くというのが今回の私たちの姿勢ですという示し方が、静岡については一つ言えるのではないか。

もう一つ、我々としてというのは、先ほど来、吉岡委員と僕が言っているように、福岡市では開催しておくべきだと思うので、事務局、委員会がお忙しく大変だったという事情は重々承知なんですけれども、やはり2月に議論してその続きが今日というのは、コアメンバーとしては非常に不満な部分があり、そうなったらとにかく開催するということを前提に、もう少し具体的な、日程も含めた案づくりをもうそろそろしたいというのが希望である。

（木元座長）本当に申しわけない。

（小沢委員）御前崎でやった方がいいと私は思っている。せっかくこういう要請をくれたところだし。

（木元座長）こっちができる部分とできない部分をしっかりと整理してという意味で。

（小沢委員）逃げないことだと思う。

（木元座長）逃げてはだめ。開催するにしても、どうやったらできるかということの討議だと思うので、時期を含めて、場所を含めてだろうと思う。

（井上委員）市民参加懇談会は2回開催することは可能か、今年中に。これは1回だけという前提か。

（木元座長）やろうと思えばできるだろう。

（中村委員）確かもっと回数を増やすはずだった。

（木元座長）4回ぐらいできればやりたい。

（井上委員）では1回でないということであれば、2月の段階で福岡という案があったので、イメージとしてはそれで、例えば玄海で起きた地震等々考えても、先ほど吉岡委員がおっしゃったような実体験がつい最近あるわけだから、大きなテーマに、地震とか、防災とか、災害のことが出るというのは当然予想されるわけです。今年の市民参加懇談会の事業計画の流れとしては、福岡からスタートしてもいいのではないかと思う。そうすれば、

私どもも地震に関して深く知っているわけでもないのに、そこに意見も言えない状態で座るのはちょっと辛いなという気持ちがあって、福岡で開かれたことによってまず少しはあぶり出され、それを踏まえて、次にもう少し突っ込んだレベルの御前崎なり、浜岡の中での議論にも参加できる、心のゆとりも情報も自分の中にあれば、次の段階で静岡にというのならば、委員としても納得できると思う。

それから、「地震は恐ろしい」というこのカードを出されると誰もノーは絶対言えない。市民であれ、学者の先生であれ。スマトラ沖地震に始まったと思うが、あれから新聞にも随分「原発震災」という言葉が踊り出した。「原発震災」とか「原発災害」とか。記事を読んでいると、地震の規模が言われている想定内と想定外のどちらもあいまいで、議論するときにその共通項がなくて、私たち素人は、そういうふうに言われれば、ああすごい、怖い、無理、だめ、とこうなるし、きちんとしたものを聞かされれば、ならば大丈夫、安心、と揺れる。

だから、もう少し自分たちも勉強しないといけないけれども、少しそういう素地を持った上で、まさしく要請が来ているこの内容と一緒に参加できるのではないかと思うので、中村委員のおっしゃったものに、少しタイムラグをとる開催が可能ならと思う。

（木元座長）最初に福岡なら福岡で開催して、続けてというか、1カ月ぐらい間を置いて、あるいはもうちょっと置いて静岡でということは可能かもしれない。

吉岡委員、何か。

（吉岡委員）私ら一応コアメンバーというのは、素人でもいいという前提で成り立っているわけだから、参加者と一緒によろよろして右往左往しても構わないわけである、別に理路整然とした答えを用意していなくてもよい。会の順序というのはそんなに関係なくて、むしろ問題を私たちが早く受けとめるという方が意味がある。間を置くというのは、技術的に不可能なら別として、ひと月間隔でもやれると言っていたから、順序はどちらでもいいけれども、両方おやりになればいいのではないか。私たちが回答できないことについては、地震のプロ、耐震のプロがいないから、その点は回答できませんとあらかじめ言っておいて、それで構わないという条件つきでやるのがいいと思う。

（木元座長）私たちが開催までにかかる時間がどのくらいかということだが、例えば資料21-1号のプログラム案で、左側の方は、第1部パネルディスカッションとなっていて、消費者、有識者、ジャーナリストから3名ほど招聘するというのは、以前、東電問題関係で開催した東京と埼玉でのやり方である。

それから、大阪等で開催したのは、参加者は公募して、1カ月近くとってご意見をいただいて、その中の希望者から発言者の方を選ばせていただいて第1部に出ていただくという方式だった。

そういうやり方と、例えば東京の第2回的时候には主婦連の清水さんと、田岡さんと住田先生、3人をお願いして第1部で問題提起のパネルディスカッションをして、第2部の方はたっぷり時間をとって会場からご意見をいただいたという形をとった。時間的な余裕がない場合には、公募した中から選ばせていただくということをしなくていいわけだから、割合早く取りかかることは可能かもしれない。

（小沢委員）開催要請した人は、500人も集まる自信があるわけだろう。あらかじめ選出市民から意見を出すといっているんだから、すごく良い条件ではないか。

（中村委員）整理すると、前回の議論を踏まえて言うと、まず福岡、なぜ2部構成の古いスタイルに戻るかというのは、第1部で知識の共有化、これが立地と違って大きな消費地の場合には足りない。立地ならいきなりご意見をというのが可能だったけれども、福岡開催だとこのプログラム案で、第1部は情報の共有化、あるいはこんなご意見があるというのは知っていただくという形でパネルディスカッションということ。第2部の方は、とにかくご意見を聴く。これならパネリストの選定さえ終わればすぐに取りかけられる。

静岡で開催するということになると、一応この開催要請を踏まえて、ある程度特定の話題も想定してという場合は、これはまさに立地での開催パターンと同じだと僕は思うので、例えば浜岡等、地元で開催する形式はパネルディスカッション形式ではなくて、ご意見を事前にいただいて、10人ぐらいの地元パネリストの意見でまず第1部をやって、それを踏まえて、第2部、会場からご自由に、再発言ありというあのスタイルだろう。東京でも開催したし、福島でもやった。静岡の場合は、やはりそちらのスタイルだと思う。福岡の場合は、古いスタイルのパネルと、ご意見を聴くという2部構成。静岡でやるときには第1部は地元の発言したい人に発言してもらうのが良いだろう。福島、それから銀座の第1部、あるいは大阪でやったスタイルの方がいいと思う。

（木元座長）大阪も公募だった。

（中村委員）そうだと、物理的に福岡をすぐやって、今取りかかってもその1カ月後ぐらいでないと多分静岡というのは無理だろう。今取りかかれば、例えば8月の下旬に福岡をやって、9月の下旬に静岡というのも十分可能だろう。ご意見を7月1日ぐらいに集め始めたとしても、物理的な作業からいって9月開催は可能だろう、今までの例からいった

ら。その辺りでスタートというのはいいかなという気持ちはある。

（木元座長）その手順を少しこちらで検討してみて、できる範囲を出してみる。

（吉岡委員）テクニカルな話だが、東電問題をテーマにした市民懇では田岡氏が随分挑発をして、大げんかになって、パネルディスカッションはおもしろかったが、ほかのパネルディスカッションは、失礼な言い方だけれども、密度がそれほど濃くなかったと思うので、ディスカッションを省いて専門家の意見を述べてもらうのはいかがか。

（木元座長）どういう専門家か。

（吉岡委員）今、御前崎の話をしているわけだが、いきなり市民の方に話をしてもらうというのとの折衷案で、何人かのある種の専門家に話題を提供してもらって、それから市民のディスカッション入る。

（木元座長）それは市民ではなくて。

（吉岡委員）はい。

（小沢委員）専門家はおもしろくないことがよくある。もたもたしゃべられると嫌になってしまう。

（中村委員）今日は案として。

（木元座長）案として伺っておく。

（中村委員）僕の言ったのも案だし、僕や小沢委員が考えているのも案だし、吉岡委員のも案ということで。

（木元座長）市民参加懇談会の性格とか、そういうものを考えながらちょっと整理しなければならないかもしれない。

それで一般公募をして、さっき開催要請の方からも10名ほどお聞きするというのと、500人以上お集めになるということを表明されているけれども、市民参加懇談会の今までのことからいうと、ご意見を募集する。何百名と来るかもしれない、一番多いのは幾ら来たか忘れたけれども、発言者の選出を無作為にすると、同じような意見ばかりになると困るから、いろいろな角度の意見が、市民の声がほしい。

そこで、数ではなくて中身で分けてみて、その中から今度はお電話するなり何なりして来られますか、来られませんかを伺う作業などがあるわけです。その方式でやるとすると、ここの要請の方にある例えば10名ほど選ぶとすると、ちょっと時間がほしい。そうすると福岡を先にやるか。

（小沢委員）ホームページに載せるくらいでは全然だめですか。

（木元座長）ホームページにも載せる。

（中村委員）今までの経験から言うと、やっぱりお手紙、ファックスという要望が相当数あって、もちろんインターネットは必要ですが、IT化はそんなに進んでいないんだというご意見の方もいて、批判される方もいる。

（木元座長）Eメールで来るご意見も多いが、ホームページをご覧になってかどうかかわからない。ご案内文にアドレスを書いているので、それで寄せられているかもしれない。

（中村委員）大体ファックス、Eメールがその半分かくらい、郵便もさらにその3分の1ぐらいはある。それでご意見を分類している。

（犬塚補佐）募集の方は、ホームページに掲載するタイミングでプレスにもご案内して、新聞に書いていただいたりしているので、広く一般にお知らせしている。

（小沢委員）電話をかけたりするのは大変か。

（中村委員）選定でちょっと時間がかかるということだと思う。

（犬塚補佐）先ほど木元座長がおっしゃられたのは、ご意見をいただいた方で、当日どの方にお話しただくかということを検討する際に、若干対象の方との打ち合わせが必要だということかと思う。

（小沢委員）そのところはあまり力を込めない方がいいのではないか。アットランダムで。

（中村委員）それにしても、そんなに何カ月も必要はないはずである。

（木元座長）公募をかけてから1カ月から1カ月半。

（中村委員）だから今から準備して、もし福岡をスタートにするなら……。

（木元座長）スタートにすればすぐできるかもしれない。

（中村委員）やっぱり9月末ぐらいに、9月下旬に静岡というのは可能だと思う。お盆休みがあっても。

例えば福岡を8月にやるころに、静岡の方のご意見が全部集まってくるという状態になっていれば物理的には可能だから、事務局の問題はあるけど、今スタートすれば絶対可能である。今までの経験から言ってもそれはできるはずである。

（吉岡委員）福岡でコアメンバー会議をやればいい、福岡で会議をやって、そのメンバーの選考など、そういう静岡の会の打ち合わせもできるから、いいかもしれない。

（木元座長）この会議を福岡でやるのか、懇談会を開いた上に。

（吉岡委員）はい。

（木元座長）いつも吉岡委員には移動していただいているから、たまにはこちらが移動していかなければいけないが。

（中村委員）少し整理していただけないか。大体我々の意見はそういうところじゃないかと思う。

（木元座長）タイトルの方も、防災などのご意見も出たので、整理して書いてみる。事務局からも案が出るかもしれない。

そうすると、フォーマットとしては、例えば福岡を先にするとすれば、今のプログラム案の形式でよろしいか。1部は3名ぐらい選んで、コーディネートの方をお願いしてやるという案で。

（中村委員）それでいいのではないか。消費者の方というのは、雰囲気的に地元会場参加者の代表という位置づけで。

（木元座長）地元で消費者団体の方がいらっしゃればよい。

（小沢委員）そういえば、船に乗かって抗議行動していたのは福岡ではなかったか。

（木元座長）あれは上関である。

（中村委員）あれは瀬戸内の方である。

（小沢委員）それから、情報が流出したとかいっているのはどこか。

（中村委員）あれは泊、北海道である。

（小沢委員）何かいろいろなことが一度に起こるから。

（吉岡委員）川内も……。

（中村委員）薩摩川内と泊である。

（小沢委員）本当にいろいろなことが起こっているのも、あまりもやもやしてられない、この原子力のことは。地震のことだけ言っではいられないことは確かである。

（木元座長）この消費者の方は、福岡の現地の方ということで、市民団体からお願いして、有識者となると学者の方ですか、九州の学者というと。

（齋藤原子力委員長代理）九州大学に原子力の先生がいる。

（木元座長）では、その学者の方でよろしいか。

（小沢委員）1人ぐらいは。

（木元座長）あと、ジャーナリストは、田岡さんのような方か。

（中村委員）田岡さんのような人というのもあるし、かなりいろんなことを知っている読売の井川さんのような感じも良いと思う。井川さんは今、論説委員で、策定会議のメンバ

一でもある。

（小沢委員）田岡さんのような人はいないのか。

（中村委員）田岡さんみたいな人は田岡さんだけではないか。

（小沢委員）どこかの委員をやっていない人はいないのか。みんなやはり取り込まれているのか。

（木元座長）井川さんはかなり意見がシビアでよろしいと思う。

（中村委員）委員であっても別に取り込まれているとは限らない。厳しいことをおっしゃる委員の一人である、井川さんは。それにフィールドが広い。

（木元座長）では、名前が出たので井川氏を。

（中村委員）世代的にも若いし、発言が偏ってはいないと思う。

（吉岡委員）あと4人目で、例えば北九州の深江守さんとか、そういう人を入れたらどうか。

（木元座長）深江さんというのは。

（吉岡委員）批判的立場のNGOの人で、北九州地域においては一番活躍されている人だと私は認識している。

（木元座長）4人になってもいいかもしれないということですね。

ということで、では、こちらでパネリストを選ぶという方向でよろしいですね。それで、2部の方は会場の参加者からご意見を伺うということでもよろしいか。

まず九州を先にやって、すぐ時間を置かないで次に静岡。静岡の場合、御前崎にするかどこにするか決めたい。福岡は福岡市でいいか。

（中村委員）福岡市がいい。

（木元座長）福岡市がいい、大消費地ということで。

（吉岡委員）そうだ、福岡なら福岡市である。

（中村委員）北九州からも、大分からも佐賀からもみんな来ることが可能である。

（木元座長）静岡でやる場合には、御前崎というご要望があるが、静岡全県に声をかけるという感じにするか。

（中村委員）基本的にはそうではないか、我々の場合だと。

（小沢委員）ただ、やはり御前崎と言ってきているから、同じ静岡は静岡でも御前崎から一番遠いところなんて選んだらよくないので、御前崎近辺でいうことでいいのではないか。

（木元座長）近辺。募集をかけるのはどうか。

（中村委員）ご意見の募集は全県でいいのではないかと。

（小沢委員）限定しない方がいい。

（木元座長）限定せずに。それで、発表者を選ばせていただく。何名ぐらいか。

（中村委員）今までの経験から言うと、やっぱり10人が限度か。できれば8人ぐらいの方が回りがいいけれども。

（木元座長）福島は何人だったっけ。

（犬塚補佐）10人です。

（木元座長）ちょっと多いかなという感じだった。

（碧海委員）静岡は、テーマはもう一遍検討するということか。

（木元座長）そうである。福岡を前例として開催して、そしてこのテーマでいこうということになるかと思う。

（小川委員）ただ早く募集したいわけですね。

（木元座長）今、決めるか。

（小川委員）福岡が終わってからテーマがこれからというのと遅くなる。

（木元座長）福岡が終わる前に募集を開始してしまうか。

（中村委員）もちろん終わってからではないか。パラでいくのだけれども、一応テーマの立て方についても、先ほどお任せいただけますかという話だったと思う。

（木元座長）皆様のご意見を伺っていると、耐震の安全性というタイトルにはなり得ないということなので、やっぱり私としては今言わせていただくと、原子力と防災とか、暮らしと災害情報とか、何かそういう形にならざるを得ないかなと思う。震災とか耐震とかということになると、限定されてしまうので。

（中村委員）防災もやはり厳しいと思う。かなり限定したイメージになってしまう。

（東嶋委員）原子力と安全、安心みたいなことにしておく方が良いのではないかと。

（中村委員）その方がまだいい。

（碧海委員）安全、安心と聞くと、それだけで私がっかり来る。

（中村委員）それで、知りたい情報は届いていますかと問いかけるから、安全、安心というのはいいいと思う。

（小沢委員）「原子力と暮らし～知りたい情報は届いていますか～」というのでかなりいろいろな意見が出るのではないかと。

（木元座長）カバーできる。ではそれにしよう、やはり、原案で。

（小沢委員）例えばここだったら地震への問題意識の人がいっぱいいるとするとその人たちの知りたい情報は何なんだというふうにやっていけば、カバーできると思う。

（中村委員）福岡だとプルサーマルが当然出てくる。

（木元座長）出てくる。だからこれが一番妥当だとは思う。

（碧海委員）ただ、確認しておきたいのは、それはこの要請とは相当違ってくるタイトルであり、市民の意見を集めるといっても、つまりこの要請で上がっているような住民の声では必ずしもなくなるわけなので、相当変わるということですね。

（木元座長）原子力委員会の市民参加懇談会の性格からいって、そうならざるを得ないということはお話ししなければならないと思う。

（中村委員）そこははっきりしておかないといけない。

（木元座長）多分納得いただけるのではないかなと思うが。

（小沢委員）ただし、静岡でやろうというときにこの要請が大きく影響しているし、その要請してきた人たちの意見をむしろ市民懇のメンバーは聞きたがっていると。私も聞きたいですから。本当のこと言うと。どういうところから地震なんだと、そういうことに内容で答えられればいいのか、地震問題を話せる人を選ぶとか、何人かいればいいのではないかな。

（木元座長）何人かというのはどういうことか。市民の意見を募集する。ご意見を1部で、どんどん出していただいた場合にそれに答える地震学者という意味か。

（小沢委員）地震学者、中部電力でいって言っているんで、中部電力でもいいのではないかな。だから、いろいろな意見がありますと、それについてお話ししましょうということではないかな。向こうが特化しているのに、こっちも特化し返したらおかしい話である。

（木元座長）小沢さんのご意見でよろしいか。

（碧海委員）つまり形式を変えるということか。静岡では福岡方式ではなく、市民の意見を募集するんですよね。だから専門家のパネリストが何人かいて、解説するというスタイルではないんですよね。

（木元座長）1部は大阪みたいに発言希望者を募集し、10名ぐらいから伺わせていただく。2部で広く一般の方からご意見をいただくという方式は変わらない。そのときに、小沢さんがおっしゃるように、何か質問が出るかもしれないから、専門家の方にスタンバイしておいていただくとか、そういうことは工夫しなければならないかもしれない。

（中村委員）それは非常に難しく、そうすると、今日の最初の話だけれども、東嶋委員が言われたような説明会的な要素になってきて、これまでも形式は違うけど、説明要員を用意したという例もある。そうすると、この説明要員が我田引水延々とおやりになるので、我々の主目的から外れてしまったので、排除しようという例もあった。とにかく、我々が今答えられないけれども、あなたたちが持っている不安とか疑問というのはどういうもので、どういう形のものかわかりましたと言って帰ってくるしかないのではないかと思う。

そこで、いやいや、その不安は違いますという説明者を用意する必要はないと思う。

（小沢委員）浜岡に関して見たスマトラの津波の番組では、そこは6.いくつまでは大丈夫だと言っているが、スマトラの場合は8.いくつだったとかという数字が上がってくると、えっ、そうなんですかという話になってしまう。

（木元座長）先ほど小沢さんがおっしゃったように、みんな全部だめになってしまう。

（小沢委員）だから一蓮托生なんですよ、原子力というのは。

（木元座長）それで全部、一蓮托生よで話が終わっては困る。

（中村委員）首都直下型だったらみんなだめだから。

（小沢委員）みんなだめだから一蓮托生なんだけれども、ではそこに至らない地震でひびが入ったとか、そういうのは大丈夫かと言っているのだとこちらは判断していくしかない。

（碧海委員）だから中村さんが言われたように、とにかく聞いてくるということに徹するなら私も賛成である。しかし、地震の専門家を呼んでもし話を聞いたら、それは地球温暖化だって同じだけど必ず違う意見があって、ある人の話はこうだけど、ある人の話はこうってことにやっぱなる。

（小沢委員）だから耐震構造について話せるのは、浜岡で言えば浜岡の関係者だけなわけだから、中電が頑張ってくればいいのではないか。

（木元座長）一応、中部電力さんということで頭に入れておく。

（中村委員）先ほど吉岡先生が言われた背景も考慮し、それから資源エネルギー庁が、春以来のいろいろな国会でのやりとり等々、業務委託云々のことで、実質的新年度は何もほとんど活動していない。それがどうもそろそろ動き出しているから、秋には相当また去年並みの活動を始めると思う。その辺までずれ込むとまた重なってくるので、なるべく早く、まずやっぱり8月ぐらい、お盆休み明け、あるいは8月の下旬ぐらいには福岡をやって、9月中ぐらいに静岡をやるということでスタートすれば、年度内にもう1回とか、もう2回とかやる余裕が出てくるから、そのぐらいでやりたいというのが希望である。

(木元座長) 事務局から、今後のことで、何かある。今のことでまとめていただいて。

(犬塚補佐) 事務局の方で、今日、先生方にいただいた案をもとに開催計画、また今後のスケジュールについてご相談させていただく。

(木元座長) それから開催要請には500人以上ということがあるが、その件だけ申し上げなかった。私自身は、500人以上集まると、話が聞こえない、見えないということがあると思うが、人数はどうだろうか。やはり今までの200人ぐらいという規模か。

(中村委員) 我々のやり方だと、最大でもやっぱり300ぐらいだった。特に会場から声を聞いたりすることを考えると。

(小沢委員) 何か根拠はあるのか、多ければ多い方がいいという。

(碧海委員) 500人入れるところがあるのか。

(犬塚補佐) 場所はあるとは伺っている。

(小沢委員) 800人、500人会場ありと書いてある。あとは200人まで。「大きいほど行きやすい」と書いてある。

(中村委員) おそらく地元というのは、ほかでもあるのだが、小さい集まりにすればするほど出にくいというのがある。だれが出てどうだったというのが風通しよ過ぎるというのは、かえって皆さんが参加しにくいというので、大きい会場ならばというニュアンスかなと思う。

(小沢委員) だから、ばらけているとやりにくいというのはこちら側の問題であって、今、言ったように、来る人たちは上の方のはじっこの方にいたいとか、そういうことがあるのだったら、500人ぐらいの会場でいいではないか。

(木元座長) それは静岡の場合。

(中村委員) 結果的に300であっても、それは構わない。

(小沢委員) 300人ぐらいでやろうということで。200を限定にするのは我々のやりよさですから。

(木元座長) やりよさというか、ご意見が伺えて顔が見えるということである。

(小沢委員) 顔が見たいといって、最初からこっちが200に限定することはないのではないか。来ないかもしれない。

(木元座長) それは成り行き任せで。

(新井委員) 「浜岡原発を語るかい」というのは、どういう組織か。

(犬塚補佐) 地元有志の集まりである。

（木元座長）ここに書いてある代表世話人の方が、実は今日いらしているので、ご紹介していいですか、あちらにいらっしゃるんですけれども。

（代表世話人）とにかくそれは地元の方です。御前崎周辺の方たちです。それで声を出せないというので、私たちが代弁して、今、県内の東の方から2人とも参りました。

（木元座長）声を出せないというのは。

（代表世話人）とにかく地震についてすら話ができないという状態だったんですよ。東海地震のことを話すことすらタブーというか、言えないという。そうすると、すぐ原子力につながっちゃうというような、そういう空気だと言うんです、地元の方たちが。普通に暮らしている方も、それから推進してきた方も、反対してきた方も混ざっている中でのお話です。そういう状況で。

だからお話を始める前に、東海地震というものについて、一応政府のこういうものというのを聞きたいと言っているのが一部の希望だったんですよ。だからパネルディスカッションをしてほしいなんていうんじゃなくて、それは私たちはそう思いますけれども、でも地元の方はそうじゃなくて、とにかく政府のこういう地震ですよというのをちゃんと描いていただいて、それに対して、じゃあ原発は大丈夫ですかというふうに自分たちで考えたい、聞いてもらいたい、そういうことなんです。

（木元座長）まず、説明が先ということ。

（代表世話人）そう、だから具体的に言うと、判定会長さんとか予知連会長さんとか、そういうような方で……。

（中村委員）まず、東海地震自体ということですね。

（代表世話人）そう、その話が県内あちこちでやるにもかかわらず、御前崎では地震だけの話もやってもらえないと、そういうふうな話です。非常に私も理解するまでに時間がかかりましたけれども、そういうことで、いろいろ地元の方の希望をまとめたのが、今日出させていただいたものになっております。

（木元座長）声ですね。

（代表世話人）そうですね。だから全然私の希望ではないんです。もうちょっとそんなじゃなくてねとありますけど、でも地元の方たちの思いを大事にして、それを伝えて、こちらの市民懇談会の要請とドッキングできるようなところでというふうに思っていますので、ぜひ今後も協力して何とか実現したいと思っています。できるだけ早くということも要望でした。よろしくお願いします。

（木元座長）ありがとうございました。

（中村委員）地震についてのご希望はわかったんだけど、今、国が想定している東海地震の規模と被害想定みたいなのをまず知りたいという話になったら、ちょっと我々に全く手に余るというか……。

（小沢委員）それは原発とか原子力とかの直接の関係じゃないですからね。だからむしろ限定してもらって、浜岡は東海地震で大丈夫ですかと言ってもらった方がすごくすっきりする。そしたら、政府はこれだけでも、我々の耐震構造はこうなっているからと持っている資料で説明したりするでしょう。予知連というが、予知の先生に聞くと、予知はあり得ないと言っている。

（中村委員）かなり絞ることはできるけれども、予知はできない。

（小沢委員）だからそういう予知連のを持ってこられては困る。原発の関係に限定してもらいたい。

（木元座長）だから、予知連の先生方のお話を伺って、その上で出てきたことを、今度、次のステップでぶつけてくるという話にならざるを得ない。

（小沢委員）それはだけど、市民運動みたいなものは自分たちで呼ぶものですよ、そういう勉強は。

（代表世話人）そこに来れば問題ないですよ。私たちが主催しても来れないんですよ、地元の方たちは。あんなところに行ったっていうふうに言われるから。

（中村委員）わかります、そのところですね。

（代表世話人）そう、だから私はそんなに時間をとらなくていいと思うんですけど、こういう地震が想定されていますということを、今の一番最新の情報を、東海地震がどのくらい本当に切迫しているのかとか、そういうようなことは、判定会長さんとか判定会の方だったらできるわけですから。

（木元座長）でも、どこまで切迫しているのかというのはわかりませんよ。

（代表世話人）もちろんわかりませんが、ちゃんとおっしゃいますよ。

（木元座長）静岡県でも結構いろいろ情報を出している。私も聞いていますから。県民の方はいっぱい聞いていると思ったんだけど。

（中村委員）ただ、それが浜岡ではないということですよ。

（代表世話人）ないの。

（中村委員）浜岡ではタブー視されているんだという。

（代表世話人）よけられているんですよ。

（木元座長）でも、テレビでも新聞でもかなり報道されている。

（中村委員）だからそれなのに地元でちゃんとした説明がないから、余計皆さん疑心暗鬼になって、しかるべき組織が主催した場でそういうのを言ってくれということですよ。

（代表世話人）そうですね、国がかかわったところで言っていただけると、そんな気持ちなんだろうと思うんです。

（木元座長）そうすると、地震予知連絡会に言った方がいいのかな。

（代表世話人）判定会ということでしたけれどもね。政府のそういった公式のものを話していただければいいということで、私も別にこだわらないですけれどもね。

（中村委員）だから、もし例えば座長が情報としてそういうのが入手できて、話ができるならば……。

（木元座長）だから、知りたい情報が届いているかの範疇で言えばね、予知連絡会はこうですよという資料をお渡しするとか。

（中村委員）今までも専門家の説明ではないけれども、疑問や不安の中で、こちらで説明できる分というのについては、座長が取材をしていただいたり資料を集めていただいたりして、それについては、こういうことがわかっていますよというのを説明するというのはあった。

（木元座長）委員会としては、事務局が集めたものは出せる。

（中村委員）だから我々としては、もしそれである程度皆さんが地元で考えていらっしゃることにこたえられるのならば、100%じゃないかもしれないけれども、我々の立場としてはこういう情報を集められましたという形がもしできるなら、それはできると思う。

（小沢委員）政府がはっきりして安心させてほしいというとき、我々は政府なんですか。

（新井委員）私もそこはちょっと気になる。スルーしたことによって、木元さんがそれをエンドース（支持する）みたいな形になりませんか。

（木元座長）エンドースしては良くないので、こういう情報が国から出ていますということとはできる。

（新井委員）しかし、そんなことは我々がやらなくてもできる話だろう。

（木元座長）あると思ったが、浜岡だけは届いていないらしい。

（新井委員）でも、それはわざわざそうしなくてもできる話ではないのか。

（小沢委員）中部電力に全部やってもらうしかない。彼らが、政府の資料がこれこれであ

ると。それに基づいて、我々はこういう安全対策をとっているということでオーソライズする（正当と認める）しかない。私たちが、政府は言っているから安全ですよとは絶対言えない。

（木元座長）安全です、ではなく、政府が出している情報はこうです、と言うしかない。

（中村委員）そこまではできるかなと思ったけど、新井委員が疑問に思っているから、それはちょっと不安かもしれない。

（新井委員）そんなことは幾らでもできるけれども、そうする理由は私にはわからないということである。あたかも原子力委員会が関与する市民参加懇談会が、それをするによって、誤解を招くのではないか。先ほどおっしゃっている方のものも、国がどうのこうのということをおっしゃっている。そうすると、いかにもそういう形をとるとするのは、私はあまり適切であるとは思えない。

（小沢委員）国を代表して木元さんが言っちゃって責任をとるならいいけど、市民懇としてはできない。

（新井委員）私だって責任はとれない。

（小沢委員）私たちは国を代表できない。

（吉岡委員）でも、地震のことについてのみ何か説明員を立てるということは、ちょっと枠組みからいって難しいと思うので、どういう情報がほしいかを言っていただいて、それを踏まえて、私たちが、要望が多いテーマについて人とか資料とかを決めるとか、そういうことをすればいいのではないか。

（木元座長）その1回では終わらない。

（吉岡委員）別に1回で終わる必要は……。

（小沢委員）そうすると、碧海委員が言ったところに帰着してしまう。何で浜岡だけやっていないのかと。浜岡でやればいい、それだけの話になってしまう。浜岡だけ訓練どころかみんなが心配なのに耐震の構造も説明していないのか、と。早く説明しなさい、といって終わり。そこだけに限定するならば。

（碧海委員）保安院のオフサイトセンターもある。

（木元座長）オフサイトセンターがあるし、私は、情報は結構出過ぎるぐらい出ているように思う。それが有効だかどうかわからないにしても。だから知りたい情報が届いていないのかもしれない。もう1回整理する。

さて、議事録は公開することになっていますので、作成してまたお送りさせていただく

ので、よろしく願いたい。

今日の結果で今後どうするかはまとめて、またファックスなり何なりで送らせていただくが、それでよろしいか。

（碧海委員）あと、日程の件はなるべく早めに皆さんに聞いていただきたい。

（小沢委員）この会議も数が少な過ぎるというのがありますね。きっとこういう話というのは間を置くと冷静にいろいろ話もできるけれども、たまには話した方がいいかもしれない。

（木元座長）吉川委員、今まで聞いていらして何かご意見はあるか。

（吉川委員）これは事務局にはファックスでお話ししたが、こういう要望をいただくのは大変ありがたいことで、今日の議論はそれに尽きたと思うが、どういう内容の要望なら受けて、あるいは全部受けるのかとか、少しルールがある方が、こちらの議論も要望が出るたびごとにいちいち詳細に検討しなくていいし、それから要望を出される側でも、どの程度の詳細さで要望を出していいのかということがわかるかなと思う。ガイドラインというほどではないが、大まかなルールがあったらいいのかなと思う。

（木元座長）ありがとうございました。おっしゃることは理解させていただいている。

ただし、今日も議論をお聞きになっておわかりのように、市民参加懇談会は原則全部受ける。その上で、市民参加懇談会の性格に合うかどうかとか、できる、できない、そういう今日みたいな論議はずっと続けていきたいと思う。そのうちにホームページなり何なりご覧になって、ルールというものはないけれども、ああ、こういうものなのかとわかっていただければそれでいいのではないかなと思う。あまり固定したルールで決めない方が市民懇らしいかなという気持ちを持っている。よろしく願いたいと思います。またぜひお時間を見つけて来ていただければありがたい。

あと、今日は途中で町委員がお帰りになりましたが、齋藤委員長代理、それから委員長、一言あれば。

（近藤原子力委員長）あるとすれば、再三再四、小沢さんからご発言をいただきましたように、大変時間をあけてしまったこと、ひとえに私どもの責任でございますので、まことに申しわけなくおわびを申し上げます。

（小沢委員）問題になっている情報漏れだとか、いろいろなことについてもきちんと聞かせていただきたい。一番知りたい情報が私たちに届いていない。人のことより自分に届いていないから。

（犬塚補佐）今、政府の方で調査しており、今日の時点ではご用意できる状況ではなかったもので、何か情報があつたら先生方にお送りするので、よろしくお願いしたい。

（齋藤原子力委員長代理）先ほどの碧海委員の話で、一言だけ申し上げる。

防災訓練に一般の方が参加出来ないあるいは知らされないとの不満があるというお話があつたが、実は私、東海村で30年以上働いており、東海村とか茨城県で30年前にそういう訓練をやるかということを計画したときは全く逆であり、一般の会社員とかあるいは農業をやっている人を2時間も3時間も縛って、一体その補償はどうするんだ、そんなこと出来るわけないではないかという不満が起こって、なかなか実際の訓練ができなかった。チェルノブイリなどが起こってから一般の方に参加していただけるようになってきたと、歴史的にはそういう認識を持っている。

（碧海委員）私がそういう不満を聞いたのは、決してそれほど古い話ではなくて、講演に行ったときに、地元の人からそういうことを聞いたことがある。つまり参加する、しないだけじゃなくて、そういうことが行われるという情報すらないというようなこと、それはあくまでも一般市民の側である。だから避難訓練をやるということは大変なことだから、関係者の方はいろいろなことを検討されると思うが、一般市民レベルでほとんどそういうことを知らされていないということをする人たちがいた。

（齋藤原子力委員長代理）防災訓練を実施出来なかった時代を大変変わったとの感想である。

（木元座長）それも、知りたい情報は届いていないということなのかもしれないし、それからそういう防災訓練をやるときに、市民側がどう考えているかというリサーチがない。よかれと思ってやっていることだけれども、市民から考えれば、防災訓練はこういうふうにやってほしいという気持ちもあるかもしれない。そのところはまだ届いていない、吸収されていないということはあるかもしれない。

今日はおかげさまで5時前に終わることができた。ありがとうございました。

では、またご連絡させていただきますので、よろしくお願いしたい。

（碧海委員）スケジュールを早めに。

（木元座長）コアメンバー会議の件にしても、それから市民懇の福岡とか静岡とか、そのスケジュールについても、こちらで場所選定とか、そういうことも含めてご連絡させていただくので、よろしくお願いしたい。ありがとうございました。